

第4章

1. 災害時の命をつなぐ救急対応①

副読本  
28～29ページ

年 組 番 氏名

1 過去の災害で多かった死傷の原因から、災害後の救助などで協力できることを考えてみましょう。

災害名	多かった死傷の原因
阪神・淡路大震災	
新潟県中越地震	
東日本大震災	
御嶽山の噴火	

2 災害時に倒れている人やけがをした人を発見した場合、どのような救命措置や応急手当ができるかをまとめましょう。

けがの様子	救命措置や応急手当の方法	使用できる用具や代用品
頭部打撲頸椎損傷		
ガラス等での切り傷		
腕や足の骨折		
意識なし		

3 建物の下敷きになった人の救出に役立つ道具にはどのようなものがあるか考えてみましょう。

救助中に危険が伴う場合もあるので、その時には安全が確保されたあとに救助の協力をするようにしましょう。